



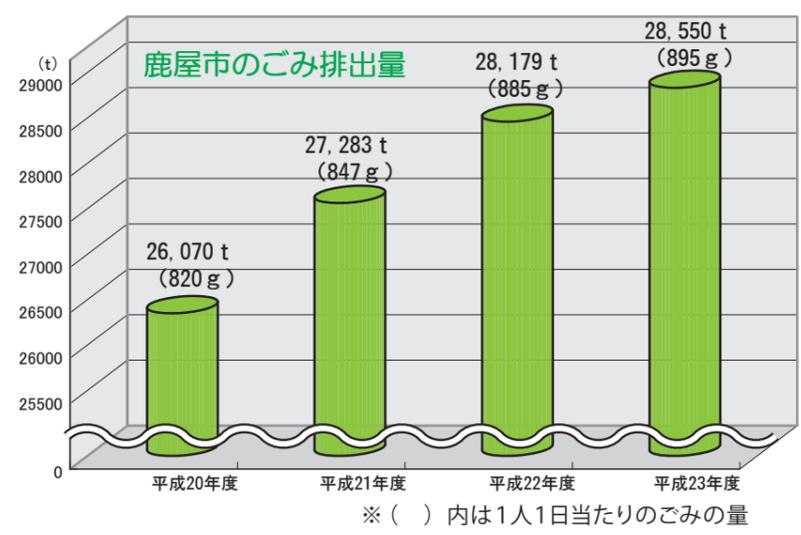
平成23年度資源物売払代金

約4,580万円

古紙類	×約 1,429 t	=約22,500,000円
空き缶	×約 222 t	=約17,900,000円
ペットボトル	×約 174 t	=約 4,200,000円
古繊維類	×約 235 t	=約 200,000円
ビン	×約19,000本	=約 100,000円
金属類	×約 63 t	=約 900,000円
合計		約45,800,000円

平成23年度ごみ処理経費

約13億2,600万円



4R運動の推進

市では、ごみの減量・リサイクルのために、4R運動を推進しています。

4R運動とは、

- Refuse (リフューズ)**・
- Reduce (リデュース)**・
- Reuse (リユース)**・
- Recycle (リサイクル)**

資源化率の向上

市では、ごみステーションから収集した資源物をリサイクル業者に売払い、その収入はごみの処理経費に充てています。

平成23年度は、資源物量6,087トンに対し、約4,580万円の売払代金の収入がありました。

ごみの分別徹底を図ること、ごみの減量・資源化率の向上につながり、収集した資源物はリサイクルして新しい製品に生まれ変わります。例えば、約30枚の牛乳パックから、トイレトーパーパーが約5個作られます。他の資源物も新たな製品の材料として利用していますので、資源物の分別にご協力をお願いします。

増加を続けるごみ量

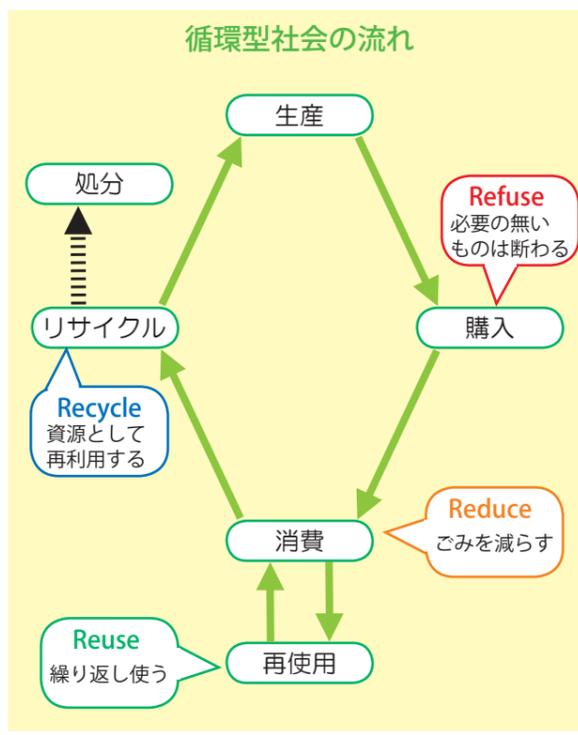
市では、資源循環型社会の形成に向けて、ごみの分別収集に取り組み、ごみの減量化・資源化を推進しています。平成21年度からごみの排出量が増加傾向となつていますが、このようなことから、平成23年度に寿・札元・西原地区を中心とする70か所のごみステーションで「燃やせるごみ簡易組成分析調査(サンプリング調査)」を実施しました。この調査により、燃やせるごみの中に含まれる「生ごみ」の割合は21.1%、「古紙類」の割合は9.4%という結果が得られました。

このことから、生ごみは自

ごみの減量・リサイクルへ協力を!!

市では、市民の皆さんの協力を得ながら、ごみの減量・リサイクルに取り組み、平成11年〜20年度までは順調にごみ総排出量は減少していましたが、平成21年度を境に増加に転じています。このようなことから、更なるごみの減量・リサイクルの推進に取り組む必要があります。今回、「ごみ」の現状と課題を報告し、ごみ減量の取組方法を紹介します。循環型社会の実現に向けて、この機会にぜひ、ごみの減量・リサイクルへの協力をお願いします。

【問い合わせ】市生活環境課 0994-31-1115



の4つの言葉の頭文字を取ったものです。

Refuse (リフューズ)

- 必要の無いものは断ろう
- 買い物袋(マイバック)等を持参し、レジ袋はできるだけ断りましょう。
- 過剰包装や不要な包装は断りましょう。

Reduce (リデュース)

- 洗剤やシャンプーなど中身を詰め替えられる商品を選びましょう。
- 不要なものを買わないようにしましょう。

Reuse (リユース)

- ものを大切にしましょう。
- 必要のないものでも、まだ使えるものは繰り返し使おう
- リサイクルショップやフリーマーケットを利用したり、友達など必要とする人に譲りましょう。

Recycle (リサイクル)

- 資源として再利用しよう
- 資源化できるごみは、分別ルールに従って排出しましょう。

家処理、古紙類は資源物に分別することがごみの減量に繋がると考えられます。

●古紙類を出す際の注意点

お菓子の箱など名刺サイズより大きな紙は、資源物の雑誌類に分別して資源物に出しましょう。

●生ごみを出す際の注意点

生ごみをそのまま燃やせるごみとして出すと、焼却施設で水分を燃やすこととなります。水分を燃やすには、莫大なエネルギーが必要ですので、生ごみはなるべく自家処理できない場合は、十分な水切りをして燃やせるごみに出しましょう。

燃やせるごみを出す前に

市民の皆さん一人ひとりが毎日約150g(ご飯茶碗1杯分)を減らすことで、年間約5,700トンのごみ量を減らすことができます。

ごみ量を減らすことで、ごみの処理経費の削減につながり、指定ごみ袋の使用枚数の節約にもなりますので、資源物をごみとして出していないか、ごみを出すときは再度確認をお願いします。